

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	朝日大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	アサヒダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	産業実習
	学部・研究科等名	法学部
	担当教職員名・役職	法学部長 大野正博
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	1
	受入企業等数	2
	受入企業等名	瑞穂市役所、岐阜トヨペット株式会社
インターンシップの分類	7.中小企業でのインターンシップ.8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事.2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
要素②	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事務業務、接客業務、営業業務随行、商品搬送補助業務等
	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している.6.当該インターンシップは、選択科目として実施している.8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	1年次～4年次
要素③	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	大学で学んでいる知識が社会といかに関わり、活かされているかを理解し、組織の一員としてのマナー、個人としての責任感を習得し、職業人としての倫理の重要性を実感させる。同時に、社会における実体験を通して、各自の仕事に関する関心、希望、適正等を再確認し、キャリア形成についての意識を深める。実習内容や社会経験を簡潔にまとめて発表できるようにすることを目指し、事前指導・事後指導を含め60時間以上の実習を行う。
	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている.2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている.3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている.4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている.2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている.3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	事前指導は4時間以上実施しており、就職支援担当部局と協働し、受入企業等に関する業務内容等に関する調査・研究及び社会人としてのマナーや守秘義務の遵守等について学修すると共に企業等において事前打ち合わせを行う。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	事後指導は4時間以上実施しており、実習終了後に実習報告書を提出及び企業等からは、実習評価表の提出を求める。実習後にインターンシップ成果報告会を行い、各自の就業経験を通じて取得した知識や課題を持って取り組んだ成果を発表する。
3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	指導教員が実習先を訪問し、勤務状態の確認指導を行うほか、メール等によっても連絡を取り報告を求める。	
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている.2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている.3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	市役所・企業側から「産業実習報告書」の作成を求められ、事後の「実習評価表」も併せて、総合評価される。
	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい

要素⑤	5-2.該当する実施期間	3.複数の企業等においてインターンシップを実施することにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	事前指導2日間、事後指導2日間、インターンシップ実施期間10日間
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
要素⑥	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前指導・事後指導を含め60時間以上の実習を行うこととしており、複数の企業等で行った場合は、合わせて60時間を超えることを求めている。
	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している。3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている。4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している。5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	大学の教務担当部門、就職支援部門及び企業等とが産学連携活動に関する協定の下、協働して行っており、実習時だけでなく、事前指導、事後指導においても企業等に参画願いや助言や協力をいただいている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://risyu.asahi-u.ac.jp/up/faces/up/km/Kms00802A.jsp
問い合わせ先	大学等名	朝日大学
	担当部署名	朝日大学学事部学事二課
	担当者役職名	
	担当者氏名	
	電話番号	058-329-1079
	メールアドレス	gakuji2@alice.asahi-u.ac.jp